

## 「嫌い」が嫌い

群馬県 中之条町立中之条中学校 三年

永野 響

僕は「嫌い」という言葉が好きじゃない。なぜなら、「嫌い」という言葉は人を傷つけるからだ。だから僕は、この言葉を人に対して使うべきではないと思う。でも、大抵の人は「嫌い」という言葉を使い、そして何事もなかったかのように話を続ける。僕は思う。みんなは大切な事を忘れていると。それは、言葉の持つ力だ。言葉は無数にある。その中であって「嫌い」という言葉を使うのは、相手を傷つける自分勝手な行動だと僕は思う。みなさんは言葉をうまく使えているだろうか。相手を傷つけるために使ってはいないだろうか。

僕は、友達と話すことが大好きだ。いろいろな人といろいろな話をする。その日は学校の先生について話していた。「あの先生、面白いよね。」と話していると友達が、「俺はあの先生嫌い。」と言った。「なんで。」と聞いてみると、「だって、話し方とかキモイじゃん。」と笑いながら言った。その瞬間、僕は嫌な気持ちになるとともに、ものすごく悲しい気持ちで胸が締め付けられるのを感じた。なんでそんなことを言うのだろう。もつと他に言い方はないのだろうか。心の中で僕はそう叫んでいた。友達にとつては何気ない一言だったのかもしれない。でも、その言葉を先生が聞いていたら、どう思うだろう。きつと深く傷つくはずだ。

心の中で感じたことを素直に表現できるのはいいことだと思う。最近ではSNSを通じて匿名での発信もできるようになったため、より意見の交流が活発になったと感じる。でも、それを利用して誰かを傷つけたり、悲しませたりする人もいる。テレビでは、誹謗中傷によって追い詰められ、自らの命を絶ってしまったというニュースを見かけることも少なくはない。誰だってマイナスな感情は抱いてしまうものだ。でも、そのマイナスの気持ちを、そのままマイナスの言葉で表現し、相手に伝えるのは間違っていると思う。言葉は自分が思っている以上に、相手を傷つけてしまうこともある。だから、忘れないでほしい。自分が言った言葉に傷ついている人がいないか意識することを。言葉は自分の思いを伝えるとともに、聞いている人に気持ちを伝染させることができる。だから、マイナスの気持ちを伝染させるのではなく、プラスの気持ちを伝染させることができれば、僕らはもつと優しくなれるはずだ。

どうすればマイナスの言葉を当たり前のように使わなくなるだろう。それは簡単だ。マイナスの言葉をプラスの言葉に置き換えてみることだ。例えば自分が誰かに「嫌い」という感情を抱いているとする。このとき、ストレートに「嫌い」と表現するのではなく、「苦手」や「相性が悪い」というように、言葉や視点を変えて表現してみる。そうすることで、より柔らかく相手に伝えることができる。また、聞いている人もすんなりと受け入れることができる。言葉は無数にある。だからこそ「嫌い」「気持ち悪い」そんな言葉を使うのではなく、落ち込んでいる人や悩んでいる人に、「大丈夫」「元氣出して」と声をかけてほしい。言葉の使い道とは、本来こうあるべきなのではないだろうか。共に励まし合い進んでいったその先に明るい未来は待っているはずだ。

言葉にはものすごいエネルギーがある。だから、言葉を放つときは、一瞬でいいから考えてほしい。その言葉がどんな未来を招くのか。本当にその言い方が合っているのか。言葉は人と人をつなぐ橋にもなれば心を引き裂く刃物にもなる。言葉のもつ力について考えることができれば、僕らを取り巻く世界はもつと温かくなるはずだ。そして、そんな温かい世界を僕は見てみたい。